

平成22年第6回(11月)瀬戸内議会定例会

教育委員会行政報告

市長の一般行政報告に続いて、教育委員会から3件の行政報告をいたします。

耐震補強工事の進捗状況について

学校施設は、児童生徒等にとって一日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、地域住民にとっては災害発生時の避難所となり、防災拠点としても重要な役割を担うなど、その安全性の確保は極めて重要です。

将来、発生が危惧されている大規模地震に備え、耐震性が低いとされている昭和56年以前の建物の耐震化を計画的に推進していくため、市教育委員会では「学校施設等の耐震化計画」を策定し、平成24年度までに耐震補強工事を完了する計画でございます。

平成22年度は、IS値0.3未満の耐震補強工事として、小中学校の校舎や体育館等8件を予定していましたが、このうち、邑久小学校体育館、今城小学校体育館、長船中学校技術教室の3件は工事が完了しました。また、牛窓北小学校校舎、邑久小学校校舎、邑久小学校ゆめ広場、玉津小学校体育館の4件は、年度末の完成に向けて工事を進めています。

しかし、今年度工事を計画していた牛窓東小学校校舎については、耐震補強のための岡山県建築物耐震診断等評価委員会で指摘事項があり、現在その解決に向けて作業を進めております。

国民文化祭の実施報告について

10月30日・31日の2日間に開催しました「備前おさふね名刀フェスティバル」では、「キラリ瀬戸内 来て！ 見て！ ふれて！ 千年の技」をサブテーマに、次の4点を事業展開方針に掲げ取り組みました。1点目は、多

くの人誰でも参加でき、参加者が感動や喜びを実感できる祭典。2点目は、市民の積極的な参画による瀬戸内市の文化の再発見となる祭典。3点目は、地域文化交流による文化芸術活動が向上する祭典。4点目は、「おもてなしの心」でふれあいと交流の祭典です。

備前刀のふるさと備前長船刀剣博物館には、現代のお守り刀の優品に加え、里帰りした備前刀の国宝や重要文化財の古作の優品を特別展示し、過去最高の入館者がありました。2日間、全会場で延べ8,822名の来場者をお迎えしました。

出演者・ボランティア・職員スタッフ延べ439名は、各分野で瀬戸内市の魅力を全国へ発信しようと日々努力し、ステージ発表、展示の準備に汗を流し、当日は持てる力を出し切り、来場者を心からもてなしました。来場者からは「刀って美しい」「来て良かった」「丁寧な説明に感動した」「笑顔でのもてなしが嬉しかった」など、多くの反応があり、参加者と来場者の心が通じた素晴らしい祭典となりました。

国民文化祭を契機に生まれた博物館ボランティアは、2日間で約2千人を案内し、触れ合う中で充実感を味わい、さらなる一步を踏み出そうとしています。地元の小学生たちも懸命に学習で得た知識を来場者の皆さんに伝えようと頑張りました。福岡の大手では、地元を挙げて盛り上げました。この文化の祭典により、大勢の皆さんが瀬戸内市の文化の魅力を再発見し、交流を通して喜びや感動を味わうなど心豊かな人づくりができたものと思います。

この祭典で得たものを、今後の文化振興、人づくりに活かしていきたいと考えております。

瀬戸内市立美術館の開館について

瀬戸内市立美術館については、予定どおり10月1日に開館し、美術館建設にご尽力いただいた方々をお招きして開館式典を挙行いたしました。現在、最初の展覧会として「開館記念 佐竹徳展」を開催しております。この展覧会は、佐竹画伯からご寄贈いただき、美術館所蔵作品の柱となっている作品

を展示しており、12月26日まで開催いたします。入館者数については、新聞で紹介され議員の皆様もご承知だと思いますが、11月13日に5,000人を突破したところです。

10月2日には、著名な美術評論家の宝木範義（たからぎ・のりよし）先生をお招きして開館記念講演会を開催したところ、約200名の方が聴講されました。また、貸し出しスペースとして設置したギャラリーでは、10月に瀬戸内市文化協会絵画部の美術展と写邑（しゃゆう）クラブの写真展が開催され、入場者数はあわせて3,426名となっております。

今後、特別展や企画展、講座等を行い、末長く市民に愛される美術館となるよう努めていきたいと考えております。

以上をもって、教育委員会の行政報告とさせていただきます。

平成22年11月29日

瀬戸内市教育委員会

教育長 山崎 宗則